

＜注射＞インフルエンザワクチン予防接種説明書

予防接種を受ける前に以下をよくご覧ください。わからないことは接種を受ける前に医師にご質問ください。

【どんなワクチンか】

6歳未満の小児を対象とした2015/16シーズンの研究では、発病防止に対するインフルエンザワクチンの有効率は60%と報告されています。現行のインフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからない、というものではありません。しかし、インフルエンザの発病を予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては、一定の効果があるとされています。

ワクチンの予防効果が現れるのは、接種後約2週間、持続するのは5か月程度と考えられています。

1シーズンで2回接種する場合の接種間隔は4週間が適当と言われています。

【副反応は？】

主な副反応は接種部位の発赤、腫れ、痛みが接種者の10～20%に起こり、全身反応としては、発熱、頭痛、寒気（悪寒）、だるさ（倦怠感）などが接種者の5～10%に起こりますが、いずれも通常2～3日でなくなります。

また、稀にみられる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（接種後30分以内に出現する呼吸困難等の重いアレルギー反応のこと）が見られることがあります。

その他、重い副反応としてギラン・バレー症候群、急性脳症、急性散在性脳脊髄炎（免疫力の異常で自分自身の体を攻撃して起こる脳や脊髄の病気）、けいれん、肝機能障害、喘息発作、紫斑などが報告されています。

【予防接種を受けてはいけない方】

- 明らかに発熱がある方（体温37.5℃以上）
- 急性疾患にかかっている方
- ワクチンに含まれている成分でアレルギー反応が見られた方
- 医師により予防接種を受けることが不適当と診断された方

【予防接種後の注意】

- 接種当日は接種部位を清潔に保ち、普段通りの生活をしましょう。激しい運動や大量の飲酒は避けてください。
- 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこするのはやめましょう。
- 接種直後、または数時間経ってから、発疹やじんましんなどのアレルギー症状が出た場合は、速やかに病院を受診してください。
- 注射した部位が赤く腫れたり痛んだりすることがありますが、いずれも一過性で通常2～3日で治ります。腕全体が腫れるなど異常な症状が現れたときは、速やかに診察を受けてください。
- 接種後、高熱やけいれんなど体調の変化が現れたときは、速やかに診察を受けてください。

【接種対象年齢・回数・間隔等】

接種対象年齢	回数	接種間隔	接種料金
6か月以上13歳未満	2回	1～4週で接種可能ですが、免疫効果を考慮すれば、3～4週間あけた方が良い	クリニックの公式サイトをご確認ください
13歳以上	1回	—	

予防接種による健康被害救済制度

予防接種法に基づく予防接種（定期接種）による健康被害救済に関する請求について、当該予防接種と因果関係がある旨を厚生労働大臣が認定した場合、市区町村から健康被害に対する給付が行われます。

予防接種のうち任意接種（薬事制度上）によって健康被害が生じた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）による被害救済制度の対象となる場合があります。

